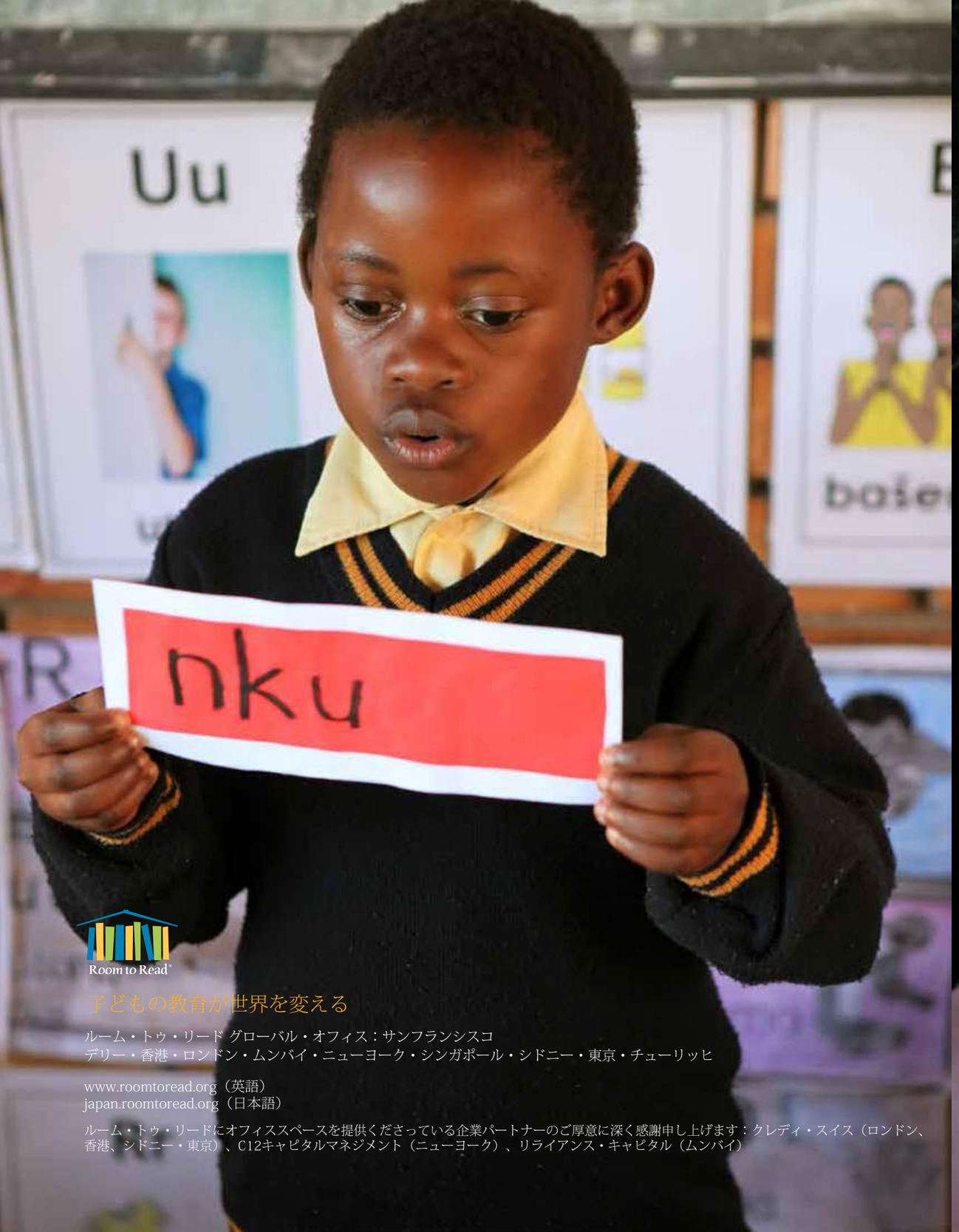
ジグソーパズルを解く：
識字教育と女子教育

ルーム・トウ・リード
アニュアルレポート2014



Room to Read

子どもの教育が世界を変える

ルーム・トウ・リード グローバル・オフィス：サンフランシスコ
デリー・香港・ロンドン・ムンバイ・ニューヨーク・シンガポール・シドニー・東京・チューリッヒ

www.roomtoread.org（英語）
japan.roomtoread.org（日本語）

ルーム・トウ・リードにオフィススペースを提供くださっている企業パートナーのご厚意に深く感謝申し上げます：クレディ・スイス（ロンドン、香港、シドニー・東京）、C12キャピタルマネジメント（ニューヨーク）、リライアンス・キャピタル（ムンバイ）

私達はジグソーパズルを解いています

CEOからの手紙

こんにちは！

私は子どもの頃からジグソーパズルが大好きです。似たような色や形を試行錯誤しながら組み合わせ、やがて最後の１ピースがぴたりとはまった時の満足感は何物にも代えがたいものがあります。かつて母と私がジグソーパズルに挑戦していたように、その習慣は今では私と娘に受け継がれています。
なぜこのような話をしているのか、とお思いでしょう。その理由は、過去15年間にわたってルーム・トゥ・リードが独自のジグソーパズルを作り上げてきたことをご説明したいからです。私達は長い年月をかけて、どうすればそれぞれのピースがうまくはまるのかを検証しながら、少しずつパズルの完成を目指しています。それは、識字教育プログラムと女子教育プログラムの最終目標を達成し、私たちが望む結果を出すことです。具体的には、まず小学校で文章を自然に読めるスキルを教え、そのスキルと読書習慣の相乗効果で読解力を養うこと。次に女子生徒が高校を卒業するまでに、人生の大切な場面で正しい決断を下せるライフスキルと、私生活およびキャリアの両面で意志に基づいた選択ができるようになってもらうことです。
1千万人の子ども達に良質な教育機会を届けるという私達のマイルストーンが迫りつつある今（本年度中に達成できそうです）、ルーム・トゥ・リードが成し遂げてきた影響力の大きさとともに、プログラムがどれほど奥深く良質に進化してきたかを思うと胸が熱くなります。
活動を始めた当時から私達が長期的に支援している国々のスタッフには、その国の文化や状況を考慮した上で、フレキシブルにプログラムを改善するようお願いしています。私達は変化を恐れずに新しい試みに挑戦しているのです。しかし多くの起業家と同様に、いつも最初からうまくいくわけではありません。活動やプログラムが機能していると確信を持てるまで様々な可能性を試し、必要であれば調査や調整を行います。昨年度には大きな戦略計画プロセス（3ページ参照）に着手し、最善だと確信できる方法を標準化することにしました。世界中の各支部から収集したデータをもとに最善の方法をとりまとめ、その標準化したアクティビティ一式と指導法を世界中で実施している2つの主要プログラムに組み込めたのは喜ばしいことでした。
本年度のアニュアルレポートでは、識字教育プログラムと女子教育プログラムのそれぞれのピースをどのように組み合わせて希求する結果を得ることができたのか、また毎年100万人の子ども達を支援することが教師や校長、司書、親、祖父母、兄弟姉妹などの周囲の人々にも好影響を及ぼしながらどう世界に変化をもたらすのかについてもご報告します。
私達がジグソーパズルを完成させるために計画的に行ってきた全ての活動を誇りに思います。ジグソーパズルというものは、組み合わせながら着実に完成を目指すものです。そして今度は、ルーム・トゥ・リードが2020年までに少なくとも1千500万人の子ども達を支援し続けた先にどのような素晴らしい未来が待ち受けているのだろうと考えると胸が高鳴ります。ルーム・トゥ・リードにとってなくてはならない1ピースになって下さって本当にありがとうございます。皆様のご支援なしには、それぞれのピースを正確にはめることはできなかったでしょう。

心を込めて

Erin Ganju

エリン・ガンジュ共同創設者 兼 CEO

理事長からの手紙

親愛なる皆さんへ

本年度のアニュアルレポートのテーマ「ジグソーパズル」は、ルーム・トゥ・リードの活動にふさわしいキーワードです。この15年間、私達が効率的で良質なプログラムを届けようと適切な組み合わせと答えを導き出すために模索してきた経緯を表しているからです。
常に進化し続ける組織らしく、2014年は私達の戦略プランをさらに前進させ、より沢山の子ども達に支援を届けるための業務を拡大するだけでなく、私達が集中して取り組むべき2つの大きな問題の解決に焦点を当てて尽力することにしました。
まずひとつめは、持続的に資金調達を増加させることです。これを維持できれば、ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムや女子教育プログラムの需要を満たし続けることが可能になります。私達は、堅実で多様な投資家層が多くの国で広がっていることを嬉しく思います。そして投資家の皆様と連携を保ち達成を分かち合うことは私達にとって意味深いことです。しかし現在そして将来的にも資金を分配していくには、より体系的な方法を見つける必要があります。そして自動的なプロセスができれば、調達した資金を最大限に活用できるようになるでしょう。
また私達は、人材やプロセスへの的確で戦略的な投資にも力を入れています。スタッフが効率的に働けるよう、内部システムを大掛かりに最先端化する構想は長年にもわたる懸念事項になっています。しかしスタッフの能力を最高レベルにするためや適正を伸ばすために誰が資金を出すでしょう？ ですからスタッフがミッションを遂行するにあたり、最も生産的なスキルとツールで業務を行えるよう私達は最善を尽くしています。
私は常々、ルーム・トゥ・リードが過去15年間に達成してきた成果に驚かされます。おそらく2015年末には、1千万人の子ども達に支援を届けるという驚異的なマイルストーンに到達するでしょう。この数字は当初の予定を5年も早く実現したことになります！ さらに、この活動に貢献して下さった寛大なサポーターの皆様方のおかげで、2014年には5千万米ドル以上もの寄付金と物資面でのサポートを提供して頂きましたことに深くお礼申し上げます。これほど多くの資金調達ができる非営利団体はなかなかありません。加えて、2014年には米国議会図書館で最高の栄誉である「ルーベンシュタイン・リテラシー・アワード」を受賞できたことも光栄でした。この賞は、私達が運営およびシステムともに最高レベルの組織であること、そして識字教育の向上と普及に多大なる貢献をしたことの証になります。また2014年からはYouTube社のCEO、スーザン・ウォシッキーを理事会に迎えることができましたことを嬉しく思います。
私達が注力する次のステージは、活動する国々と組織内で、長期にわたる体系的な変革を成し遂げ、支援を拡大することです。私達の活動に参画してくださる皆様のご厚意に心から感謝いたします。この新たな未来の「ジグソーパズル」を解くために、皆様のサポートを引き続き頂戴できれば幸甚です。

C Brey

クレイグ・ブルイェ 理事長

ルーム・トゥ・リードは発展途上国に住む大勢の子ども達の人生を変えるため、識字教育と教育現場での男女平等に力を入れています。地域社会やパートナー組織、政府と協働しながら、小学生には読み書き能力と読書習慣を、女子生徒には学業とその後の人生にも活かせるライフスキルを身につけてから高校を卒業してもらうことを目的としています。

目次

インパクトを拡大する 3
識字教育プログラム 8
女子教育プログラム 18
広く知れ渡る評価 27
企業・団体からの資金提供 29
財務報告 31
理事会および職員 33
レガシーソサエティ(遺贈寄付) 34

インパクトを拡大する

学びたくてもそれがかなわない環境にいる
2億5千万人の子ども達に
支援の手を差し伸べるのが私達の使命です。
私達の活動によるインパクトを拡大し、
健全で持続可能な組織であるための投資を
行うための戦略的な計画をたてています。

過去15年間でルーム・トゥ・リードが達成したこと

31,000人以上の少女に教育とライフスキルを提供

17,000以上の図書館・図書室を開設

2,300クラスで読み書き教育を実施

1,900以上の学校を建設

1,100タイトル以上の現地語図書を出版

970万人の子ども達の人生にインパクト

過去15年間に約1千万人の子ども達が、ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムと女子教育プログラムに参加しました。そしてプログラムの実施国はアフリカとアジアの10ヵ国、スタッフ数は1,000人以上（87%はプログラムの実施国）に拡大してきました。また活動に必要な年間5千万米ドルの資金を寄付して下さる寛大な投資家ネットワークも構築しました。

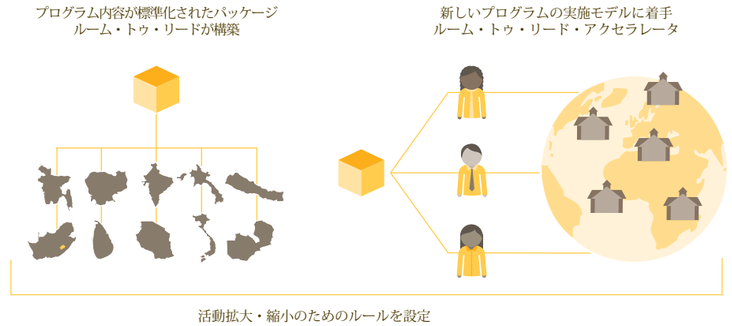
私達の支援を必要とする子ども達はまだ大勢います。

生活の質、健康、経済活動の機会は全て、教育を受けたかどうかに左右されます。そして現在、教育を満足に受けられない危機的状況にあるのは貧困国です。読み書き能力はあらゆる学びの基礎であるにもかかわらず、8億人近い人々が非識字で、その3分の2が女性と少女です。たとえ学校に行けたとしても教師の指導力が未熟だったり、運営資金が不足していたり、インフラ整備が遅れていたりで、多くの小学生が基礎的な学力すら身につけられません。女子生徒が中学・高校へ進学するのはさらに困難です。彼女達の進学率は、社会的・経済的な理由から劇的に低下します。こうした子ども達を支援するには、様々な組織や政府と協働しなければならないと分かりました。

戦略的に影響力を広げるためのプラン

課題: 私達の活動を求める世界中の需要を満たすには、どのようにプログラムを拡張したらよいか？
解決法: 私達の活動の影響力を深め、広げる。

もっと多くの子ども達がルーム・トゥ・リードのプログラムの恩恵を受けられるはずです。しかし私達の直接的な支援で世界中の需要を満たには、膨大な資金と時間を要します。この問題を解決するには、現在のプログラム内容を効率化し、改善する必要があります。**そこで私達がたてた計画は、主要なプログラムの実施方法を合理化・標準化する、ルールに則ったアプローチで支援国の拡大・縮小をする、そして「ルーム・トゥ・リード・アクセラレータ」と名付けた外部のサポート体制を確立することです。**

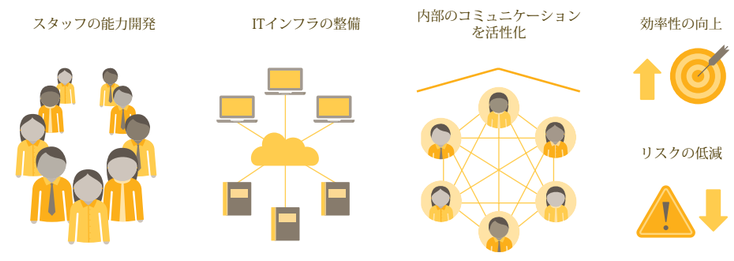


課題: プログラムの需要に応えるため、どのように調達資金の増加率を維持し続けるか？
解決策: 資金調達を効率化し、適切にリソースを配分する。

様々な地域で堅実かつ多様な支援基盤を構築しているにもかかわらず、私達の資金には限りがあります。資金調達に必要なリソースを適切なマーケットに配分するには、より体系的な方策を考えて寄付金を最大限に活用する自動システムを構築する必要があります。**こで資金調達の効率化を戦略プランの軸として、投資家（寄付者）の数と層を広げ、さらに投資家が支援活動と密接に関われるようにしていきます。**

問題点：組織としての持続可能性を確立するにはどうしたらよいか？
解決法：人、プロセス、システムに投資をする。

ルーム・トゥ・リード内のシステム開発は、プログラムが成長するスピードに追いついていません。そのせいでスタッフの業務効率が上がらないばかりでなく、効率的に業務を進めるようとするプロセスに無駄や不整合が発生しています。**そこで、スタッフ、内部システム、プロセスへの投資を強化し、持続可能な成長に耐えうる強固な基盤を構築することにしました。**



識字教育プログラム

自分の力で本を読むことができる子どもを育てるには、様々な要素を適切に組み合わせることが必要です。私達は、どのように要素を組み合わせるべきかを知っています。だからこそ、小学校において読解力と読書習慣を身につけることができ、それは生涯にわたって学び続ける基礎になります。

学習環境

読み書きの習得はたやすいことではありません。ましてや蒸し暑く、薄暗く、過密状態の教室では集中することも困難です。ルーム・トゥ・リードは地域社会とともに教室の建設・修繕を行い、子ども達が勉強に集中できる安全で過ごしやすい環境を提供しています。このプロジェクトは、空間にゆとりのある新しい教室を作る、既存の校舎を照明・安全性・通気性に配慮してリフォームする、そして生徒が本に親近感を持てるよう図書室を設けることを目的としています。

成果の報告

ルーム・トゥ・リードが図書館・図書室を開設した6ヵ国の子ども達の読書習慣を比較して、その効果を確認しました。

ビル&メリンダ・ゲイツ財団の協力を得て、2009～2012年のインド、ラオス、ネパール、南アフリカ、スリランカ、ザンビアに開設した図書室の評価を外部機関により実施いたしました。

Q. 目標をどの程度達成したか？図書室の新設は、子ども達の読書習慣や本への親近感に好影響を与えたか？

A. ５カ国のうち、4カ国において、**ルーム・トゥ・リードが図書室を設置したおかげで、家庭でも本を読む生徒の割合が増加しました。**また、５カ国のうち3カ国では、学校内でも読書を楽しんで読むようになっているという成果が見られました。

ラオスの例

BEFORE
ルーム・トゥ・リードが図書室を開設する前

13%
ルーム・トゥ・リード支援校において、学校で読書を楽しんでいる生徒の割合

11%
比較対象となった学校において、学校での読書を楽しんでいる生徒の割合

AFTER
ルーム・トゥ・リードが図書室を開設した後

60%
ルーム・トゥ・リード支援校において、学校で読書を楽しんでいる生徒の割合

37%
比較対象となった学校において、学校での読書を楽しんでいる生徒の割合

家庭で読書を楽しむ生徒の増加率もほぼ同様でした。

この調査結果は、私達が支援した図書室は子どもの読書習慣に効果的であることを客観的に証明しています。

南アフリカ：未使用スペースが学習環境に大変身

ルーム・トゥ・リード・南アフリカは右脳の創造性を活かして、公立学校内の空いている場所や未使用スペースを新しい図書室に生まれ変わらせました。その一例が、ムプマランガ州のヌクラングワナ小学校です。この学校には図書室もなければ空いている教室もありませんでした。そこで私達の現地スタッフは校長と相談して、古い倉庫を利用することにしました。色鮮やかなペンキで壁を塗り、新しい家具と図書を運び入れ、アシスタントをしてもらうボランティアスタッフを指導した後には、倉庫だった場所が機能的な図書室に変身しました。この図書室ができてからというもの、学校自体に活気が溢れています。その一因に、地域住民がボランティア活動や学校行事に関心を持つようになり、保護者が学校に集まる機会が増えたことがあげられます。

ルーム・トゥ・リード・南アフリカのスタッフ、ジャネット・モゴトーは言います。「図書室にする前は未使用のまま放置されており、空っぽの無駄なスペースでした。でも今は、生徒が安心して過ごせる楽園のような場所になりました。そこにある好きな図書を、子ども用の椅子やカーペットの上に座って心ゆくまで楽しめるのですから」

この図書室は、2014年にルーム・トゥ・リードが南アフリカで開設した20ヵ所の図書室のひとつです。私達が関与した他の図書館・図書室と同様に、ここでも私達の図書館・図書室評価システムで年間に2倍増加という結果がでました。このシステムは、私達の活動が最大限の学習効果を引き出し適切に機能しているかを評価するものです。ヌクラングワナ小学校のかつての倉庫は、最高の学習環境として蘇ったのです。

バングラデシュの学校に施したささやかな修復・リノベーションが、生徒と教師の学びに大きな変化をもたらしました

バングラデシュの郊外にある学校の多くが約100年前に建設されているため、建造物の安全性に問題があります。中には修復された学校もありますが、学習意欲をかき立てる環境作りについては考慮されていません。そこで2014年、ルーム・トゥ・リード・バングラデシュは各地域社会と協働して12の校舎を修復し、5ヵ所に図書室を新設しました。シムナガー小学校がその一例です。生徒達は蒸し暑いうえに薄暗く、雨漏りのする教室で授業を受けていました。壁の漆喰は剥がれ、未完成のままの床は窪みが目立ちます。

シムナガー小学校は、私達が2014年に支援を始めたナトール県にあります。私達は、定期的に開催されている地域集会に赴いて住民達に活動について説明しました。そしてチームメンバーは、耐震性を確保するためには現在の校舎をどう改修したらよいか、また生徒の学習意欲を喚起する教室にするためには本棚の設置やカラフルなポスターも含めてどう工夫したらよいかについて検討を重ねました。ここではルーム・トゥ・リードの「チャレンジ・グラント・モデル（共同投資モデル）」に基づいて、地元住民に費用の15%を現金や物資、あるいは労働力として提供してもらいました。

現在この小学校の全ての教室には図書コーナーが設けられ、生徒達が気軽に本を手に取れるようになっています。教師達には、授業で現地語の読み聞かせを行う際の効果的な方法を指導しました。そのおかげで、授業に活気がでてきたようです。校長のミス・サクヒナはこう話してくれました。「ルーム・トゥ・リードは、陽の光が差し込む明るい教室、本棚、ディスプレイコーナーの備わった素晴らしい学習環境を子ども達に与えて下さいました。もしこれと同じ様にバングラデシュ全土を支援して頂ければ、教育を受けた国民がこの国を変え、やがては世界をも変えていくことでしょう」

良質な図書

読書の初級者には、それぞれのスキルに適した図書と教材が必要です。難易度が高く内容が複雑だと、子どもは読書を遠ざけてしまい読む意欲が失われてしまいます。残念なことに私達が支援している地域では、初級者向けの図書は非常に少ないか、あるいは存在すらしません。この問題を解消するため、ルーム・トゥ・リードでは現地語の図書を出版しています。読書レベルごとに様々な内容やトピックの本を作って、子ども達の想像力をかきたて読書の楽しみを知ってもらえる図書を届けています。

成果の報告

スリランカにて図書の貸し出し状況から子ども達の本の好みを分析しました

2014年、ルーム・トゥ・リード・スリランカでは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の協力を得て、子ども達が好む図書の内部調査を行いました。私達が支援している学校の図書館・図書室の貸し出し状況のデータを参考にしました。

調査方法：

- シンハラ語で授業を行う6校
- タミール語で授業を行う6校

- 生徒と教師のグループディスカッションに注目

- 3カ月間の貸し出し記録

調査結果：

子ども達は、ルーム・トゥ・リードが出版した図書を、他からの調達した本よりも、好んで読んでいます

調査によってさらに判明したこと：

貸し出し数は2~5年生が多く、1年生は少ないかゼロ

最も人気のあるジャンル

上級者向けよりも人気があります

ルーム・トゥ・リード・スリランカではこの調査結果を反映した図書を出版し、教師には子どもに適したレベルの本を与えるよう指導し、そして生徒達が家庭でも本を読むよう働きかけてもらいました。

ラオスの伝統的な口承物語が、内容の充実した児童書に姿を変えました

新しい児童書のアイデアを求めて、ルーム・トゥ・リード・ラオスのスタッフはヴィエンカム郡にある2つの村を訪問しました。この地域にはオーラルヒストリー（口述歴史）や世代から世代へと口伝えで伝承されてきた話が数多く残っています。そこで私達は政府やパートナー団体と協力して、20人以上の作家、イラストレーター、政府職員に集まってもらい、信仰、伝統、音楽、文化にまつわる興味深い民話を村長から聞いてきました。作家とイラストレーターには、話を聞きながら登場人物や状況設定のスケッチをしてもらい、後に本を制作する際の参考資料にしました。この訪問を経て作家とイラストレーターが共同制作した初の児童書が、2015年にルーム・トゥ・リード・ラオスより出版されます。

「1冊目に選んだ話は、『Lost at a Rocket Festival（ロケット祭りで迷子）』というこの地に昔から伝わるボウンマ少年の物語です」と、ルーム・トゥ・リード・ラオスのソウラス・ダムロンフォールが説明しました。「少年の両親は彼に、伝統行事のロケット祭りには出かけずにバッファローの世話をするよう言いつけます。それにもかかわらず少年はバッファローを連れてお祭りに向かいますが、竹筒ロケットの大爆音に驚いたバッファローは逃げてしまうというストーリーです」

この口承プロジェクトは、コミュニティの年長者から若者へ知識と文化を伝承する貴重な機会になったばかりでなく、ラオスの子どもが自分達の文化・伝統を学びながら、そしてアイデンティティに誇りを抱くきっかけになる物語を読みながら読書力を養う素晴らしいものです。さらに、現地の若い作家やイラストレーターにとっては、芸術表現を通して自身の文化を探求していくための機会になるのです。

南アフリカのツォンガ語で教師・生徒向けの教材を出版しました

2012年、ルーム・トゥ・リード・南アフリカは、リンポポ州とムプマランガ州の公立学校50校の1年生を担当する教師達とともに、セペディ語とスワジ語の読み書き指導を行う際のスキルの向上に取り組み始めました。しかしルーム・トゥ・リードが支援している多くの学校が第一言語のツォンガ語で授業を行っているという問題が発覚したため、早急にツォンガ語の教材を作る必要性に迫られました。

そして2014年、教材と教師用指導書が14校に供給されました。テーマに沿った会話形式のポスター、生徒用ワークブック、教師用ワークブック、歌と韻の本、発音練習カード、アルファベット表のポスターとカードが含まれます。ルーム・トゥ・リード・南アフリカのキャサリン・ヌグワンは次のように言っています。「教育省と連携をとりながら、私達はツォンガ語の補助教材と教師用指導書を作りました」「会話形式のポスターは言葉の意味や使い方の指導を助け、話し言葉の語彙を増やします。そして生徒の読み書き能力を開発するスコープと順序を整えるために、ワークブックも併用しました」

2015年に新たに出版される教材は7タイトルで、ルーム・トゥ・リードが支援する学校の生徒に合わせて3言語（セペディ語、スワジ語、ツォンガ語）あります。私達の活動によって、南アフリカ政府の教育カリキュラムや政策と授業がひとつに繋がりました。

教師を対象とした専門的な支援

識字教育における重要な要素のひとつは、教師が効果的な指導法をわきまえた上で読み書きスキルを教えることです。そこでルーム・トゥ・リードでは低学年を受け持つ教師を対象に専門能力の開発と授業の進め方を指導し、生徒の学習に有益な知識やツールの活用法を身につけてもらいました。子ども達が論理的な順番で音や単語を解読できるようになるため、音声学に基づいたツールの使用方法を教師達に学んでもらうことで、教師の中に芽生え始めた能力に自信をつけます。

成果の報告

子どもの読書意欲を高める動機を調査した結果、私達の指導法が効果的であると判明しました

ビル&メリンダ・ゲイツ財団の資金援助により、2014年にカンボジア、ネパール、南アフリカにて子ども達が本を読むきっかけや、教師が生徒の読書推進を行う際の助けになっていることについて調査しました。

実証できたこと：　生徒の読書習慣を促進するために私達が教師を対象に行っている研修が有益であると証明されました。
分かったこと：　子ども達は下記のような時/動機によって、本を読む傾向があります。

図書室を利用した授業を頻繁に行い、そこに生徒が読みたいと思う本がある

T読み指導の際に、声を出して読む、皆で一緒に声を出して読む、ペアを組んで読む、黙読などの様々な方法を取り入れる

言語科目の教師が図書室の本を授業に活用して生徒のより深い理解を助ける

担当教師がルーム・トゥ・リードの研修を受けており、校長のサポートがある

ルーム・トゥ・リードはこの調査結果をもとに、識字教育プログラムを改善・強化していきます。

スリランカでのアーティストを対象としたワークショップを通じて、現地の児童書業界に貢献をしています

スリランカでの児童文学作家とイラストレーターの社会的な地位は、以前から変わらず低いままです。その理由は、児童書の需要が少なすぎて重要性が世間に浸透していないためです。文化に関連付けた現地語図書の出版、および作家とイラストレーターを対象としたワークショップで小さな読者を惹き付ける物語の作り方を指導した結果、ルーム・トゥ・リード・スリランカは現地の出版業に貢献できました。2014年、スリランカのスタッフは作家とイラストレーターを対象としたワークショップを開催し、才能のあるアーティストがその情熱を積極的に追求できる場を作りました。この活動は多くの教育関係者から注目されました。

「私は書くことがずっと好きでした。でもスリランカでは児童書を出しても出版社自体が儲からないので、その夢を追うのをあきらめてしまいました」と、『Rat's Plan（ネズミの計画）』の著者ゴパラピライ・ヨゲンドランが言いました。この本は、2014年にルーム・トゥ・リードが出版する図書の1冊として選ばれました。「ワークショップでは、私が書いた物語を通して子ども達がどう学んでいくのかを色々と教わりました。そればかりか、作品を世に出す手助けまでしてもらいました」

私達は学校の図書室に届ける本を出版しただけでなく、現地の作家やイラストレーターから彼らの作品を買取ることで継続的なパートナーシップを構築しました。ワークショップは作家とイラストレーターの才能を伸ばすために貢献します。そして、彼らの物語や絵本がそばにあればこそ、子ども達は読書の楽しみを知り、自発的で積極的な読者になれるのです。

ザンビアでの専門家養成研修が長期的な図書室の運営を実現しました

ルーム・トゥ・リード・ザンビアでは、「2014年以降の図書室の持続可能性と読書習慣」と称した専門家を養成するための研修を行いました。これはザンビア南部の学校や地域社会に信頼できる専門家を配置して、３年間のルーム・トゥ・リードの支援が終了した後も自分達の力で図書室を維持・管理していけるようにすることを目標にしています。この研修には、各学校から2名の地域住民と3名の教師に参加してもらいました。全参加者は90人以上になり、教師や地域住民の他に、司書や校長もいました。

参加者達は、図書室の定義について意見交換し、学校の図書室に必要な要素を改めて見直しました。そして図書室を維持する上で重要な出資者との連携、経費の用途、将来の展望、起こりやすい問題の解決方法、ルーム・トゥ・リードの支援が修了後の運営についても話し合いました。

「ルーム・トゥ・リードの支援が終わった後に、図書室をどのように管理・運営していけばよいかを教わることができ、とても参考になりました」と、参加者のハンプンハイ氏は言いました。「ルーム・トゥ・リードの支援が終わってしまうのは残念ですが、私達はこの図書室をうまく存続させていけるでしょう」

研修に参加した皆さんの感想はとても好意的でした。このコミュニティの人達は、研修を受けたことにより自分達が図書室を維持していくのに不可欠なスキルを身につけられたと感謝しています。そしてその図書室をこの先もずっと望ましいかたちで存続していけると確信しています。

地域社会や政府との連携

私達のプログラムを長期的に実施していけるよう、プロジェクトの初期段階から地域社会と連携し、彼らにも出資してもらうことで所有者としての自覚を持ってもらいます。また政府とも連携をとり、私達の活動を広め、教育カリキュラムを改善するよう提案することで、ルーム・トゥ・リードが支援する学校以外の生徒へも識字教育が行き渡るよう務めています。

成果の報告

識字教育における活動内容と達成度を、指標を用いて継続的に評価

ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムの成功は、関係者である教師、学校職員、保護者、地域住民など沢山の方々が積極的に参加して下さったおかげです。これらの関係者が私達の活動にどのように関与したかを年間ベースで調査し、指標を用いて評価しています。

下記は2014年のデータに基づいた評価です。

2,316人の教師
に専門能力の開発プログラムを提供

90%以上
のルーム・トゥ・リードの図書館・図書室において、保護者や関係者を招いたイベントを開催し、識字教育や図書館・図書室についての意見交換をしました

4分の3
のルーム・トゥ・リードの図書館・図書室は、地域住民のサポートを得ています

資金提供　物資の提供　労働力の提供

ルーム・トゥ・リードが始めた
インフラプロジェクトの100%
が、地域社会の多大なる協力で完成しました

こうした協力を快く引き受け、注意深く遂行して下さった皆さんのおかげで、私達が支援した学校が受け入れられ、協力を得られ、義務を果たすことができました。そしてプログラムを継続していく上で重要な役割を担う地元の出資者に報告することができました。

ルーム・トゥ・リード・カンボジアが現地NGOと提携して読書の国際ガイドラインを策定しました

2013年にルーム・トゥ・リード・カンボジアが作成した国内の図書館・図書室基準の成功により、政府の教育・青少年・スポーツ省からの要請で、読書活動におけるガイドラインの作成を手伝いました。教育省と2つのNGO団体(「シパー」、「シャンティ国際ボランティア会」)とともに、子どもに本を読む習慣をつける方法、およびそのために周囲がすべきことや義務についてまとめたものを政府に提出し、承認を得ました。2015年から正式に、政府が実行に移すことになっています。

司書として採用されたばかりのボーリン・チャップは、専門家研修で知識を得てからというもの、自らが勤務している図書室の蔵書をもっと沢山読みたくなったと語っています。「図書室で行う授業は素晴らしいですね。参加した子ども達同士が心を通わせていくのです。助け合って質問に答えたり、何かを一緒にしたりするようになりました」ボーリンは研修で学んだ知識を、同僚の教師達と共有するつもりだと話してくれました。

ルーム・トゥ・リード・ザンビアが政府の教育政策に提案をしました

「小学校低学年の学力向上における学校図書館・図書室の役割」は、ユニセフおよびルーム・トゥ・リード・ザンビアと政府の教育・科学・職業訓練・早期教育省の教師教育特殊サービス局（TESS）が2014年に共催したThird National Literacyシンポジウムのテーマです。シンポジウムでは、検討中の教育政策についての他、ザンビア国内にある図書館・図書室の改善をTESSに提案しました。
提案内容には、これから新設する全ての学校に蔵書の充実した図書室を配置する、独立した図書室を作る場所がない場合は教室内の図書コーナーか移動式図書館を考慮することが含まれています。その他、ザンビアの教育省がNGOや出版社、書籍供給業者と協力して現地語で書かれた子ども向けの物語本を読書レベルごとに出版する、国が定める教育カリキュラムで図書室を利用した授業を促進する、についても要求しました。
ザンビアでは公共図書館、学校図書室ともに不足しています。ましてや適切な読書指導ができる図書館・図書室は非常に限られています。ルーム・トゥ・リード・ザンビアではこの現状を打開するべく、政府や「ザンビア・ライブラリー・サービス」などの様々な組織と緊密に連携しながら改善に取り組んでいます。

女子教育プログラム

少女達はただ卒業証書が欲しいの.ではありません。彼女達に必要なのは、将来設計を可能にする重要なスキルです。ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムでは、メンター（指導者）、ライフスキルトレーニング、物資の支援、そして地域社会のサポートを提供します。こうしたスキルを身につけてから高校を卒業することで、人生の大切な場面で決断をくだせるようになります。

メンター（指導者）

ルーム・トゥ・リードはソーシャルモビライザー呼ぶ、女子教育プログラムにおける少女達のロールモデルであり、相談役であり、女子教育を推進する旗ふり役となる人材を採用しています。教育を受け、自立した女性の存在を証明するだけでなく、ソーシャルモビライザーは、少女達の気持ちを理解し、人生の旅路に寄り添った指導も行います。

成果の報告

ネパールでソーシャルモビライザーが女子生徒を2年間指導した結果、中途退学を防ぐ「早期警戒システム」の基盤ができました

ソーシャルモビライザーの役割は女子教育プログラムにおいて非常に重要であるため、ルーム・トゥ・リード・ネパールはソーシャルモビライザーがさらに効果をもたらす方法について2年間の調査を行い、明らかにしました。

フェーズ1：2013　ソーシャルモビライザーは毎月3,045人の少女達のデータを回収・分析し、授業の出席率、成績、ルーム・トゥ・リードのプログラムへの参加率を調べました。1年間のデータで、下記が判明しました。

女子生徒の退学が危ぶまれる4つのシグナル

学校を3日間連続で欠席

ライフスキルの授業を1回以上欠席

試験で落第点

親がルーム・トゥ・リードの保護者会を欠席

フェーズ2：2014　ルーム・トゥ・リード・ネパールは、ソーシャルモビライザーが日常的に体験していることを徹底的に調査し、業務の助け、あるいは妨げになる要因について分析しました。

この調査結果をもとに、落ちこぼれるリスクが非常に高い少女達をソーシャルモビライザーがより手厚くサポートする早期警戒システムを作りました。このシステムは現在アフリカでも試験的に実施中で、近い将来には世界中の支援国でも実施する予定です。

ベトナムで少女と親の両者を指導した結果、心を開いたコミュニケーションができるようになり将来の夢を共有できました

2014年、ルーム・トゥ・リード・ベトナムのソーシャルモビライザーは、生徒の親や家族に対しても面談指導を開始しました。少女達が学校を退学せざるをえない原因の多くが、家族の理解を得られないことに起因しているからです。ほとんどの地域では、両親は生活のために一日中働き詰めで、子どもの話を聞く時間も世話をする余裕もありません。また伝統的な家族では、年長の子どもの将来を決めるのは親である、という考え方が浸透しているため話し合いが持たれることもありません。

保護者の意識を変えてもらえるよう、ソーシャルモビライザーと生徒、保護者の三者面談の場を設け、家族同士で話し合える場を作りました。家族の理解を得られれば、少女達の力強い支えになるからです。少女が学校に通い続ける上で何らかの問題に直面した場合には、ソーシャルモビライザーは少女の相談にのるだけでなく親や家族とも面談し、親がいかに子どもの成長と学業の継続に重要な存在であるかを説明しました。さらに、ルーム・トゥ・リードが年に3回開催している保護者向けのワークショップや集会では、親達にもライフスキルセッションに参加してもらい、娘との相互理解がより深まるよう務めました。保護者達からは、こうした会合に参加したおかげで娘の教育に意識を向けられるようになれました、と感謝されています。

タンザニアのソーシャルモビライザーは、退学が危ぶまれる少女達の傾向を調査しました

タンザニアの女子教育プログラムに関わるソーシャルモビライザーが直面している最大の懸念事項のひとつは、生徒が途中で学校を辞めてしまうことです。そこで2014年、ルーム・トゥ・リード・タンザニアはこの傾向を食い止めるために、地域を特定して毎日の登校率を観察しました。そして登校率が下がってきた生徒がいれば、すぐに対処できるようにします。

ルーム・トゥ・リード・タンザニアにいる19人のソーシャルモビライザーのひとりヴァレリア・カマレキは、チャリンズ地域の多くの少女達を担当しています。そしてナスラという生徒が、金曜日には必ず欠席することに気がつきました。
家庭訪問をしたヴァレリアは、ナスラの家庭に深刻な問題があることを知りました。そして訪問時に問題を解決できなかったヴァレリアは校長に助けを求めました。
「校長の努力もむなしく終わったので、最終手段として警察の力を借りました。警察官からは法律や権利のこと、また学校教育を受けていない少女が遭遇する人生の困難について説明してもらいました」とヴァレリアは言いました。

最終的には、ナスラ自身が学校に戻る決心をしました。ヴァレリアは彼女のソーシャルモビライザーとして、日々のフォローアップと心理社会的なサポートに専念しました。15歳のナスラはつい最近、毎日通学できていることをヴァレリアから同級生の前で表彰されました。ソーシャルモビライザーと女子教育プログラムに参加しているこの少女がどれだけ熱心に取り組んだかを皆に知ってもらうことができました。

ライフスキル

ライフスキルは財産です。他者への共感、クリティカルシンキング、自己を認識するスキルは、日々の困難に対処したり情報に基づいた決断をしたりする際に欠かせません。少女達がこのスキルを身につけ毎日の生活に活かせれば、人生で直面する困難（例えば、性差別による偏見から勉強時間の捻出の仕方まで）をうまく乗り切れるはずです。私達のプログラムでは、授業やワークショップ、課外活動を通して少女達がライフスキルを習得しその能力を伸ばす機会を提供しています。

成果の報告

国際的な指標を用いた分析を行い、ライフスキル教育の学習傾向を把握しています

私達の女子教育プログラムでは、ここ数年間ライフスキル教育に重きをおいた活動をしています。

傾向を把握するために：　2014年、私達は過去6年間のプログラムデータを分析し顕著な傾向を特定しました。データには下記の項目が含まれます。

20,000人以上
の少女に提供した
女子教育プログラムの種類

学業での主な成果
（退学率や進級率など）

分かったこと：ライフスキル教育を受けた少女達はライフスキル教育を受けていない生徒と比較した場合

進級率が　16%高い

進級率が　14%低い

この結果により、女子教育プログラムにおけるライフスキル教育の成果が立証されました。

この結果により、女子教育プログラムにおけるライフスキル教育の成果が立証されました。

討論会がカンボジアの少女達に大きな自信を芽生えさせました

討論（ディベート）は、女子教育プログラムに参加する7～12年生の女性生徒に自信を培うことを目的として、2014年からルーム・トゥ・リード・カンボジアのライフスキル教育のトレーニングに正式に組み込まれました。この取り組みは、リサーチ、タイムマネジメント、パブリックスピーキング、プレゼンテーション、チーム活動などの能力にも好影響をもたらしました。

ルーム・トゥ・リード・カンボジアのソーシャルモビライザー（メンター）と外国語学院のディベートクラブのメンバーが少女達を指導し、そのスキルに磨きをかけました。そしてカンボジアで女子教育プログラムを実施している各学校で最低2回の討論会を開催しました。それぞれの学校の優勝者が、同地域の別の学校の勝者と戦いチャンピオンを決定します。

ディベートのワークショップは瞬く間に少女達の人気の的になりました。「ライフスキルトレーニングの中で好きなのはディベートです」と、14歳のヴァティは言いました。「私はとても恥ずかしがり屋なので人前で話すのが苦手でした。でも今は自信があります。授業で先生に当てられても、クラスメイトの前でハキハキと答えられるようになったのです。将来は、テレビの国営放送でやっている討論会に出たいです！」

ディベートのクラスで自信がついた生徒はヴァティだけではありません。ルーム・トゥ・リードのソーシャルモビライザー、センキム・ソクは他の多くの少女達にも同じような変化を感じています。生徒達は自分達でディベートをしては、討論者、審判役、進行役を楽しんでいる様です。

現在、ライフスキルトレーニングにディベートを盛り込んだカンボジアでの女子教育プログラムは成功しています。今後は、リサーチなどの特定技能も強化していく予定です。

ネパールでのライフスキルキャンプを体験した少女達が自分の健康、身体、権利について興味を持ち始めました

ルーム・トゥ・リード・ネパールは泊まりがけのキャンプを国内3地域、計10ヵ所で開催し、学校や家では普段教わることのない女性特有の繊細な問題について学ぶ機会を提供しました。3日間のキャンプには、女子教育プログラムに参加している7～9年生の女子生徒が約50人ずつ参加しました。各キャンプで学ぶ内容は、1年間のライフスキル教育で行ったワークショップをさらに深く掘り下げたものです。

ほとんどの少女達が思春期にさしかかる年齢であるため、彼女らの身体に起こる変化を理解することや、自分で自分を守る方法が最重要事項となりました。産婦人科医からは月経や健全な性について、女性警察官からは性的なトラブルの回避の仕方、法律上の権利、問題が起きた時にどう対処したらよいかを説明してもらいました。質問があれば内密に相談できる場も設けました。

ネパールの女子教育プログラムチームのリーマ・シュレスタがこう報告してくれました。「女の子には、思春期に体験する微妙な問題を安心して内緒で話せる機会がなかなかありません。でもキャンプの期間中は、彼女達が心の中にしまっていた疑問について尋ねることができました。専門職のキャリアを持つ女性と会って影響を受けただけでなく、教科書や親からは教わることのできない現実的な知識と情報を与えることができたと思います」

必要に応じた物資面でのサポート

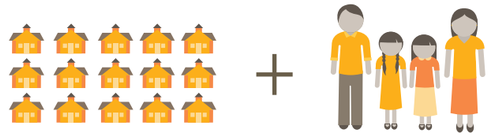
家庭によっては、学校の制服が買えない、娘を安全に学校へ通わせるだけのお金がないといった経済的な問題を抱えています。ルーム・トゥ・リードが必要に応じて授業料、制服、試験勉強の補習などを支援することで、保護者は「その日の食事をとるか、教育を受けさせるか」という選択に迫られなくなります。

成果の報告

カンボジアでの調査の結果、自転車が少女達を学校に繋ぎ止めていました

少女達の多くは、通学に長距離の移動を強いられます。そのためルーム・トゥ・リード・カンンボジアでは、ここ数年にわたり女子教育プログラムの少女達に自転車を支給することで、長距離通学を理由とする退学を防いできました。

効果はあるか？： 2014年の調査で、自転車がカンボジアでのプログラムに参加する少女達の助けになっているかを調べました。



15校
で聞き取り調査

少女達
とその保護者と共に

その結果： とても助かっています！

自転車
は少女達が学校に通い続ける原動力になっています

今後の課題：

自転車の
修理

ルーム・トゥ・リード・カンボジアは、優れた性能の自転車を支給するとともに修理の仕方も教えたいと考えています。そうすれば与えてもらった自転車を卒業するまで使い続けることができ、退学率の減少にも貢献できるでしょう。

バングラデシュで行った少女達への補習授業が、全国模試の合格率を上げました

バングラデシュの学校システムにおける10年生はとても大切な学年です。政府が実施する中等教育認定試験を受験しなければならないからです。人生を左右するほど重要だと考えられているこの試験は、生徒達にとって初の全国的な標準試験であるばかりでなく、その結果次第で進学できるかどうかが決まります。不合格の場合は1年間後の試験まで待たなければならず、その間に学力を向上させるための対策をとらなければなりません。

ルーム・トゥ・リード・バングラデシュでは、この試験を控えた女子教育プログラムの参加者の中でも特に合格点をとるのが厳しそうな子どもに焦点を当てて支援を行いました。こうした少女達は、家庭や社会的な問題で学校へ行くことがかなわず、試験勉強ができない環境にいるからです。

辺境の村に住む13歳のナージスは、ソーシャルモビライザーと女子教育プログラムのスタッフの助けを借りて、すでに決められていた結婚を解消し学校に通い続けて試験勉強がしたいのだと両親に訴えました。

試験結果が発表されました。補習授業のおかげで、ナージスの成績は5ポイント中4.13ポイントという喜ばしいものでした。彼女だけではありません。私達のプログラム参加者116人が受験し、96%が合格したのです。この割合は、バングラデシュの平均合格率の91%より高い結果となりました。進学の資格を得た少女達は勉強を続けることができます。銀行員になると決心したナージスもそのひとりです。彼女は言います。「ルーム・トゥ・リードには物資面と学習面で助けてもらっただけでなく、精神的にもサポートしてもらいました。そのおかげで私は自分自身の人生を歩んで行けます」

スリランカで貧困家庭の生徒に追加支援をした結果、国家試験に合格し卒業できました

ルーム・トゥ・リード・スリランカがハットンで実施している女子教育プログラムでは、2014年のAレベル試験（高校を卒業できるかを判定する国家試験）で素晴らしい結果がでました。この地方には茶葉摘み労働者が暮らしており、貧困にあえいでいます。そして手っ取り早く経済的な安定を得るために、多くの少女達は学校を退学するかごく若い年齢で結婚してしまいます。

「ルーム・トゥ・リードの学習サポートクラスに出席してソーシャルモビライザーの指導と助言に従ったら、勉強に集中できるようになりはかどりました」と卒業生のプラシャンティは言います。厳しいAレベル試験を受験した少女57人のうち合格者は33人、彼女はそのひとりになれました。高校の修了資格を得られたので、プラシャンティは将来の計画をたて始めました。「Aレベル試験向け特訓クラスから復習クラスまで、ルーム・トゥ・リードは私に学業面での自信をつけ、勉強するよう背中を押してくれました」

ルーム・トゥ・リードのソーシャルモビライザーは学業面でのサポートだけではなく、物資面でのサポートも行っています。通学費、ペン、書籍、家に食べ物がない少女には食料を届けます。こうした間接的な支援が、彼女達を勉学に打ち込ませ、家族の中で初めての卒業生を創出するのです。

家族、学校、地域社会との提携

家族や学校、地域社会と連携することで、少女達を支援する環境を学校以外にも拡張していきたいと考えています。活動に協力してもらうため、ルーム・トゥ・リードはコミュニティ集会を開催し、男子だけではなく、子ども達みんなを学校に通わせることの重要性や、それに起因した問題について保護者と意見交換しました。また私達のプログラムを修了した生徒とも連携をとって、後輩達のロールモデルになってもらったり、メンターやゲストスピーカーとしてプログラムに貢献してもらったりします。

成果の報告

女子教育プログラムの活動内容と達成度を判断する主な指標を調査しました

女子教育プログラムが成功するかどうかは、保護者や教師、学校関係者などの地域社会における幅広い協力体制によって決まります。そこで私達は、こうした鍵を握る人々とどのように連携したか、そして成功例からも、いくつかの失敗例からも、データに基づいた調査を行いました。下記は、2014年のデータによる分析結果です。

カントリーチームは
178校
の関係者と連携をとり、
女子生徒全員に女子教育プログラムを
受けてもらいました

女子生徒の
親・保護者の82%
が、ルーム・トゥ・リードが
開催した会合に参加しました

女子生徒の80%
が、ルーム・トゥ・リードと
提携している地元のチューターから
指導を受けました

ネパールの調査で、学校の会合に欠かさず
出席する親の娘は、そうでない親の娘に比べて、
退学のリスクは
90%以上
も低いことが分かりました

調査の結果、学校に通い続ける動機、および自分らしく生きるためのスキルを身につけて中等教育を修了させるために有効な指標が明確になりました。

インドでは、学校における性差別撤廃への積極的な取り組みが非常に重要です

インドでの女子教育プログラムでは、学校側の積極的に関与が不可欠です。2014年、ウッタラーカンド州の4校で女子教育プログラムに参加する少女700人を調査した結果、私達のプログラムが性差別に関する問題に貢献していると分かりました。

学校側が性差別撤廃に取り組んでいるかどうかは、学校での学びに影響します。トレーニングを通じて、女子生徒とソーシャルモビライザーは性差別の問題について知識と理解を深め、起こりうる事態をどのように回避し対処するべきかを学びます。これらの授業は、ライフスキルのワークショップと連動して進められるので、少女達は自分が体験した男女差別による心の痛みを包み隠さずにソーシャルモビライザーに話すことができます。そして自分の意見をはっきりと発言する方法を学びます。

「教師が研修を受ける以前は、女子生徒に教室内で座ったまま動かないよう注意していたものです。女子には役割や責任はほとんど与えられていませんでした。大声で笑う子がいれば叱りつけ、女の子が声を出して笑うのはよくないことだと諭されたものです。でも今ではそんなことはなくなりましたよ」とソーシャルモビライザーのニーラム・ホルカーは言いました。
13歳のムスカンは、彼女が通う学校のコミュニティ全体が男女差別に取り組むようになってからというもの、自分が変化していることに気がつきました。以前のムスカンは家の外で男子生徒に出くわすのを恐れていました。しかし現在では、40人のクラスメイトの前でたとえ男子生徒がいようとも、自信を持って発言ができるようになりました。

さらにルーム・トゥ・リード・インドは各学校に「チルドレン・クラブ」を設けて、男子も女子も一緒にアクティビティを楽しめるようにしました。クラブには現在120人の少年・少女が参加しており、教室内で性別に関わらず自然な交流が持てるようになっただけでなく、学区内全体では開放的な雰囲気が感じられるようになりました。

ルーム・トゥ・リード・ラオスとNGOとの提携が、女性の労働移住と暴力の問題意識を高めました

ルーム・トゥ・リード・ラオスが女子教育プログラムを実施している地域では、若い女性とその家族の人身売買や仕事を求めての移住が問題となっており、退学率にも悪影響を及ぼしています。政府はこの問題に対する国民の意識を促すべく、テレビのコマーシャルで問題提起をしてみたものの、多くの人々、特に人生経験の乏しい少女達にとってはなかなか現実問題としてとらえられないようです。そこでルーム・トゥ・リード・ラオスでは政府の活動を手助けするため、こうした問題に直面している生徒とその親に直接会って説明をしました。

私達はNGO団体、ケア・インターナショナルと連携して、4ヵ所の地域に暮らす230人以上の女性に労働移住と暴力の問題に関するワークショップを開催しました。参加者は女子教育プログラムの生徒とその保護者、教師の他に、地域行政パートナーにも出席してもらいました。

少女や保護者達は積極的に発言し、自分達の体験談を話してくれました。中には、娘を街に送って働かせ、場合によっては不法取引もさせるという提案に心が揺らいだことがある、という親もいました。新たな視点を得た少女達は、これからは職探しで村を離れる前に、きちんと質問をし、より良い決断ができると感じています。またケア・インターナショナルのような直接支援を行っている団体と協働したことで、参加者が相談したい時にはどこを頼ればよいのかを知ることができ、それを他の人達にも教えてあげられます。実際に多くの出席者達は、ここでの情報を近隣の住民と共有したので、ワークショップに参加できなかった少女達もこの問題について知識を得ました。

広く知れ渡る評価

2014年米国議会図書館のリテラシーアワードを受賞しました

米国議会図書館はルーム・トゥ・リードを、2014年米国議会図書館リテラシーアワードの3カテゴリーのひとつ、ルーベンシュタイン賞に選出しました。本賞は、活動やシステムの質の高さが認められた団体に贈られるもので、識字レベルの向上に顕著な貢献をしたことが認められました。賞金は15万米ドルでした。
「2015年末までに1千万人の子ども達を支援する計画だったのですが、ルーベンシュタイン賞を受賞できたことで、その目標がもっと早く達成できそうです。子ども達が読み書き能力や与えられた教育機会を活かして力をつけてくれると確信しています」と、ルーム・トゥ・リード共同創設者兼CEOのエリン・ガンジュがコメントしました。

エリン・ガンジュが2014年ソーシャル・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました

ルーム・トゥ・リードの共同創設者兼CEOのエリン・ガンジュは、37の社会起業家のひとりとして、シュワブ財団のソーシャル・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2014に選ばれました。革新的なアプローチとグローバルな影響力の可能性を評価されて選ばれた受賞者は、優れた社会起業家から成るシュワブ財団の社会起業家向けコミュニティに参加します。そして世界経済フォーラムのイベントや戦略に積極的に参加することになります。
エリン・ガンジュは言います。「シュワブ財団の社会起業家として選ばれた方々は、世界を本当に変える革命のための熱意と専門知識をすべての分野で持ちあわせています。ルーム・トゥ・リードは社会で最も差し迫った挑戦へのパワフルな解決策に向けて、皆さんと協力してパートナーシップを組み、一緒に貢献していきたいと思っています」

女子教育プログラムの生徒が「グラジュエート・オブ・ザ・イヤー」と「世界で最も勇敢な少女」としてメディアに取り上げられました

20歳のタイティ・グエンはベトナムでの女子教育プログラムの修了生です。ピューリツァー賞を受賞したジャーナリスト、ニコラス・クリストフはニューヨーク・タイムズ紙上で彼女の勇気を讃えて「グラジュエート・オブ・ザ・イヤー（今年、最も印象に残った卒業生）」と呼びました。彼女は母親から口うるさく退学をするよう言われていましたが、卒業までずっと通い続けたのです。現在タイティはベトナムで英語を教えています。クリストフは言います。「彼女には意志を貫く強さがあるので、近い将来には村で初の大学卒業資格を有した人物になれるはずです。あれだけの根性とがむしゃらさを見た私としては、世界中の大学を含めたグラジュエート・オブ・ザ・イヤーと呼びたいほどです」
また米国グラマー誌の「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」アワードで、私達がインドで支援している16歳のミーラが教育へのゆるぎない決意を賞賛され「世界で最も勇敢な少女」に選ばれました。大統領夫人ミシェル・オバマが女子生徒部門の「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」受賞者達に贈ったお祝いの手紙には、「あなたの勉強への情熱は、私を含めた世界中の人々にインスピレーションを与えてくれました。少女が成長する時、国家も繁栄するのです」と書かれていました。

ビデオ映像「DO NOT READ THIS（読んではいけません）」がYouTubeの12 Powerful PSAリストで注目を集め、「In2 SABRE Best PSA」に選ばれました

2014年の国際識字デー（9月8日）に解禁したルーム・トゥ・リードのビデオ映像「DO NOT READ THIS」が、In2 SABREアワード・デジタルコンテンツの最優秀公共サービス広告に選出され、YouTubeのスポットライトチャンネルで12 Powerful PSAsのひとつとして紹介されました。私達がわずか200米ドル以下の予算で制作した「DO NOT READ THIS」は視聴者に、読むこと無しに生きることが不可能であること、私達の日常生活には読み書き能力が不可欠であるという事実を改めて思い起こさせました。このビデオは約50万回も視聴されました。

ルーム・トゥ・リードのボランティア拠点をザッキー賞で表彰しました

ルーム・トゥ・リードの創設時より、ボランティアサポーターが活動に必要な資金の調達や認知度を広めるといった重要な役割を担ってきました。そして彼らの尽力に感謝して、ザッキーという名のルーム・トゥ・リード内部の表彰式を毎年開催しています。ザッキー賞は前年度の活動成果に基づいて授与されるもので、創造的かつ効果的に目標を達成したボランティア拠点（チャプター）の功績が評価されます。43都市にあるチャプターを通じて、約9百万米ドルの寄付が集められました。2014年は以下の都市のチャプターがザッキー賞の各部門を受賞しました。

ボランティア・マネジメント：チューリッヒ
優れたリーダーシップ、そして地域社会と連携したことで、チューリッヒは2倍以上の意欲的なボランティア拠点になりました。ボランティア運営チームを作ったことや年に4回行うボランティアサポーターへの功労賞「Swissie」が功を奏しました。

意識を高める：パリ
地元のソーシャルメディアを活用し、ルーム・トゥ・リードの世界的なキャンペーンを支援しながら、イベントを複数開催し、パリ近郊に支援者を広げ、Booktober（ブックトーバー）キャンペーンを盛り上げました。

革新的な資金調達：ロンドン
この3年間、ロンドンのテクノロジー企業に所属する「テクバイカー」チームは、ルーム・トゥ・リードの資金集めのために年に一度、パリからロンドンまで自転車で走行しています。その寄付金は約26万5千米ドルになりました。チームは4年目のチャレンジも計画中です。

資金調達額が増加：オースティン
オースティンでは多くの資金調達を実現するだけでなく、年を追うごとに増えています。2013～2014年は300%以上の増加率でした。

パイプラインを構築：モントリオール
モントリオールでは3年間を費やして、強固なネットワークを構築してきました。そのひとつは、多数の企業や個人を代表するチャプターアドバイザリー機関です。個人寄付者、法人パートナー、ボランティアサポーターとの強い基盤を築くことができました。

また、香港、シンガポール、東京のチャプターもプログラムの推進に向けて100万米ドル以上の資金調達に尽力しました。

スウェーデン女王、共にWCPを受賞したマララ・ユスフザイ氏、スウェーデン首相ステファン・ロベーン、WCP児童審査員アサ・レグナー、ジョン・ウッド。
前列はネパールのロシャニ。

ジョン・ウッドが「2014 World's Children's Prize」を受賞しました

ルーム・トゥ・リード創設者のジョン・ウッドが2014年の「World's Children's Prize」（WCP）の3名の受賞者ひとりに選ばれました。この賞は「子ども達が選ぶノーベル賞」と呼ばれ、同じく受賞したノーベル平和賞受賞者でもあるパキスタンのマララ・ユスフザイ氏とネパールの子どもの権利向上に取り組むインディラ・ラマナガ氏とともに、スウェーデン女王よりこの栄誉を受けました。
ルーム・トゥ・リードは賞金として、World's Children's Prize財団より2万5千米ドルを受け取りました。
ジョンは受賞スピーチでこう述べています。「ルーム・トゥ・リードを代表して、誰んでこの賞をお受けします。受賞は、ルーム・トゥ・リードのスタッフ、ボランティアに更なる力を与えてくれるでしょう。今日は皆でお祝いをします。そして明日からはまた腕まくりをして働きます。私達の支援を必要としている大勢の子ども達が、教育という生涯の贈り物によって人生を変えるチャンスがあるのだと大きな視野を抱き続けられるように」

ルーム・トゥ・リードの繋がりは、様々な報道機関やメディアを通じて10億2500万人に広がりました。

Bloomberg Business
The New York Times
theguardian
The Sydney Morning Herald
VANITY FAIR
SABC
THE HUFFINGTON POST
CNBC
GLAMOUR
FRANCE 24
VOGUE
THE TIMES OF INDIA
FT FINANCIAL TIMES
HONG KONG ECONOMIC TIMES
TechCrunch

フォロワーが
62,739
人に増えました

フォロワー
628,000
人と繋がっています

視聴者数が
1400%
チャンネル登録者数が
1000%
増加しました

新しいプラットフォーム
medium.comに、私達の
ストーリーの掲載
を始めました

私達の活動に賛同して下さる企業・団体からの資金提供が、パズルの完成の重要な鍵になっています。

数々の企業・団体スポンサーとのパートナーシップのおかげで、活動を世界中へと拡大し、低識字率や男女差による教育の不平等問題の解決に取り組むことができます。2014年に受けた全支援・収入の46%は企業、財団、政府からによるもので、現金の他に物資・サービスによる寄付もありました。またこうした支援のみならず、その影響力のあるネットワークを通じて、ルーム・トゥ・リードの活動や使命を拡散する役割も担って下さいました。

下記に、主要な企業・団体スポンサーを紹介させていただきます。

Artha Capital

アルタ・キャピタル社の資金提供により、ルーム・トゥ・リードが目指している子ども達の人生に変革をもたらす識字教育と教育の男女平等に焦点を当てたプログラムを開発・強化することができました。

Atlassian

アトラシアンは、1ライセンスあたり10米ドルで販売している新規企業や小規模チーム向けのフルサポート付ソフトウェアのスターター・ライセンスの収益金を全て、ルーム・トゥ・リードに寄付されています。本来であれば自社の新事業創出に充てるべき資金を、私達のアジア地域でのプログラムに300万米ドル寄付して下さいました。2014年に同社がルーム・トゥ・リードを通じて支援した子どもの数は7万7千人以上で、これまでに25万人以上がこのパートナー提携によるプログラムの恩恵を受けました。

Bloomberg

ブルームバーグは先駆的な取り組みを支援してくださっています。恵まれない教育環境の若者に学習支援を行い、エンプロイアビリティ(雇用され得る能力)の向上を助けるための長期的な教育水準の底上げを目指しています。2008年からパートナー企業である同社はアジアの識字教育プログラムのために、 50万冊以上の現地語図書やストーリーカードを供給する資金を援助して下さいました。さらに2012年からは、女子教育プログラムに参加する約2千人ものアジアの少女達を支援頂いています。

BURGER KING McLAMORE FOUNDATION

バーガーキングの寛大な従業員やヨーロッパ、アジア、アフリカ市場のバーガーキングのお客様、さらにはバーガーキング基金からの組織的な寄付が、カンボジア、インド、南アフリカ、タンザニア、ザンビアでの識字教育プログラムを支援しています。

CATERPILLAR

1952年に創立されたキャタピラー財団は、貧困の連鎖を繁栄への道に変換することを目的とした慈善団体です。特に少女や女性達への投資では、素晴らしい功績をあげています。2009年より私達の識字教育プログラムと女子教育プログラムに多大なる貢献をされています。この3年間に、インドと南アフリカにおける識字教育プログラムに資金提供をして下さり、そのおかげで90以上もの図書館・図書室も開設できました。さらにこの資金は、インドの1,400名以上の少女達が高校を卒業する援助にも活用されました。

citi

シティグループは、世界中の教育関連NPOのために資金調達を行う同社の「e for Education」イニシアチブを通して、2014年にルーム・トゥ・リードのパートナーになりました。2014年10~12月には、同社の名高い法人間電子取引プラットフォームであるベロシティ上で、法人取引額100万米ドルごとに1米ドルを寄付して下さいました。集まった75万米ドル以上は、識字教育プログラムと女子教育プログラムの運営資金に充てられました。

CREDIT SUISSE

クレディ・スイスは、ルーム・トゥ・リード最大の企業スポンサーの一社です。識字教育プログラムと女子教育プログラムのみならず、ルーム・トゥ・リード2015~2019戦略プランの策定などの主要な戦略プロジェクトにも協力頂いています。また同社は香港、シドニー、 東京のルーム・トゥ・リードのスタッフにオフィススペースを無償で提供下さっています。そして、同社のグローバル・シチズン・プログラムを通じて活動国のチームの能力開発のために、様々な面で貢献されています。

FOSSIL FOUNDATION

フォッシル財団の代表的なプログラム「フォッシル・アンバウンド」は、本来あるべき扱いを受けられない若者の可能性を開放するべく世界中で尽力しています。それによりアジアとアフリカにおける識字教育プログラムに、2年間で100万米ドルの援助をして下さいました。2013年に行ったプロジェクトへの支援と2014年の識字教育プログラムへの支援で、2013年から200万人以上の子ども達をサポートされています。

Goldman Sachs

ゴールドマン・サックスおよびゴールドマン・サックス・ギブズ・プログラムを通して、同社とその上級経営幹部から、数百万米ドルの寄付を頂きました。また2014年、同社はアジアとアフリカでの識字教育プログラムや女子教育プログラムに多大なサポートを提供して頂きました。

TOWNSEND PRESS

タウンゼント・プレスは独立系出版社で、小学生から大学生向けの定評のある教材を出版しています。この企業が掲げるミッションは、良質で廉価な電子・紙書籍を出版し生徒の識字能力と読書力の向上に貢献すること、読書力を促進できる1米ドルの傑作ペーパーバックシリーズを出版すること、奨学金のスポンサー協力頂いております。書籍を学校や地方団体へ寄付することです。2007年より私達のパートナーとして識字関連本の出版、図書館・図書室の開設、女子教育プログラムといった主要な活動やプログラムに

unicef unite for children

ユニセフ・ザンビアは、2011年からルーム・トゥ ・リードを支援されています。者が恩恵を受けました。2014年、ユニセフ・ザンビアは私達とともに、ペタウケ(ザンビア東部の州)の25校で子ども達の識字スキルを向上させる活動を行いました。この提携によって、約4千人の子ども達と200人の教師・管理

米国農務省(USDA)はカト

USDA FAS CRS

リック救援事業会(CRS)を通して、ルーム・トゥ・リードのラオスにおける識字教育プログラムを支援し、70以上もの図書館・図書室を開設して下さいました。これらの施設には4万9千冊の書籍が寄贈され、26校では読み書きを学ぶためのアクティビティが実施されました。

主要な企業・団体スポンサー

(2014/1/1~2014/12/31)

50万米ドル以上のご寄付

アトラシアン財団
シティグループ
エキドナ・ギビング
フォッシル財団
ゴールドマン・サックス

250,000 ~ 499,999米ドル

アノニモス財団
アルタ・キャピタル
バーガーキング マクラモア財団
バターズ財団
カイロス財団
キャタピラー財団
クレディ・スイス
タウンゼント・プレス
ユニセフ・ザンビア
米国農務省/カトリック救援事業会

100,000~249,999米ドル

ブリン・ウォジツキ財団
コーチ財団
エロール財団
オランジェリー財団とその支援者
フォー・エイカー・トラスト
グーグル社
ヒルトン・ワールドワイド
インマット財団
ジョーンズデー財団
ケンデダファンド
アメリカ議会図書館
ルルレモン・アスレティカ
モンサント財団
ミリア ド・アセット・マネジメント
ポジティブリアルエステート
地方電化公社
セールスフォース財団
センサトインベスターズ
スワデス財団
シマンテック・コーポレーション
タッチャ
東京海上日動火災保険株式会社
アメリカ合衆国国務省南・中央アジア局
ユナイテッドウェイ・ワールドワイド
(ターゲット・コーポレーションを代表)

50,000 ~ 99,999米ドル

アジア・オルタナティブ
バーニーズ・ニューヨーク
ベター・ワールド・ブックス
バイオジェン・インターナショナル
ブラックロック社
クリフォードチャンス法律事務所
CLSAアジア・パシフィック・マーケッツ
ダイニング・コンセプツ
ドッジ&コックス
エデュケーションアクション財団
GBSTホールディングス
マイクロソフト
モエ・ヘネシー・アジアパシフィック
マネーグラム財団
ネイティブ・エデュケーション・トラスト
ペプシコ財団
リライアブル・ソース・インダストリアル(RSI)
レストーシー
ラビオ&プレイモブ
セレクト・エクイティ・グループ財団
シャーウッド財団
SJSチャリタブル・トラスト
スコール財団
ウェルズ・ファーゴ社

主要な物資・サービス寄贈団体

オーストラリアワイン
ベリー・ブラザーズ&ラッド
ブック・エンタープライズ
ブック・フォー・アフリカ
ブラザーズ・ブラザー財団
C12キャピタル社
シスコシステムズ株式会社
クレディ・スイス社
ヒルトン・ワールドワイド
ケッチャム社
モエ・ヘネシー・アジアパシフィック
ピアソン財団
リライアンス・キャピタル
スコラスティック
タウンゼント・プレス

私達の価値観が、財務の健全性を生み出します

プログラムの透明性と財政責任はルーム・トゥ・リードの基本理念です。なぜなら私達は支援をしている子ども達とコミュニュニティ、そして資金提供をして下さるインベスターに対する説明義務があるからです。私達はこうした価値観を軸に企業文化を形成してきました。活動の達成度を評価したり、その成果を出資者へ報告したりというのもその一部です。なぜなら誠実さこそが成功をもたらすと信じているからです。こうして私達は子ども達と学校を支援するために、わずかな資金も無駄にすることなく最大限に活用しています。

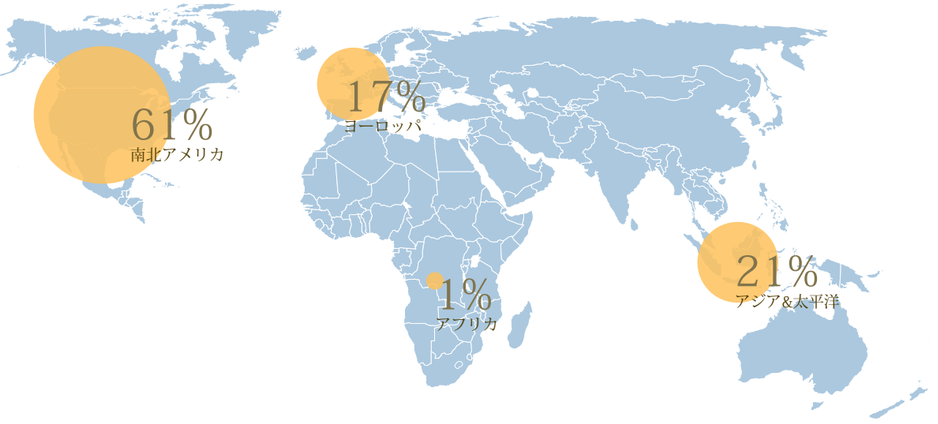
財務ハイライト

4千290万米ドル
の現金による支援

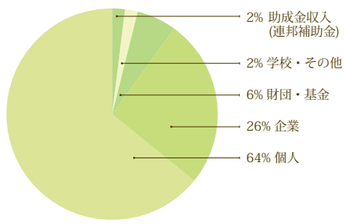
990万米ドル
の物資・サービスによる寄付

83%
プログラムに利用された割合

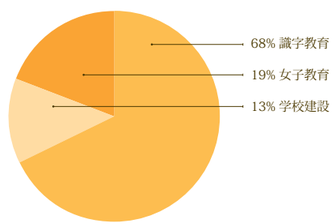
地域別収益源



投資者タイプ別寄付の割合



プログラム別出資内訳



活動報告書

2013年および2014年 (米ドル)

支援および収益	2014	2013
企業	$11,214,658	$9,454,565
財団・基金	$2,557,406	$4,044,931
個人	$27,301,694	$26,766,308
学校・その他	$1,043,486	$759,126
寄付合計	$42,117,244	$41,024,930
寄付収入	$813,544	$572,042
物資・サービス寄付	$9,922,253	$6,336,874
投資およびその他の収益、特別イベント出資、諸費用	$(12,233)	$44,244
支援および収益合計	$52,840,808	$47,978,090

運営経費:	2014	2013
プログラム運営		
図書館・図書室設置	$6,273,670	$7,699,347
学校建設	$3,484,529	$3,923,182
女子教育支援	$2,993,874	$2,813,670
図書・物資寄贈	$8,587,695	$5,324,446
会議費・旅費	$1,852,692	$1,775,331
情報技術費	$891,446	$883,255
モニタリング・評価	$322,566	$171,477
専門家報酬	$1,192,894	$421,376
プログラム経費	$2,114,252	$1,985,871
プログラム人件費	$15,223,265	$12,587,985
プログラム運営費合計	$42,936,883	$37,585,940
運営・管理費	$2,703,003	$2,526,066
資金調達活動	$6,040,120	$5,206,370
運営経費合計	$51,680,006	$45,318,376

換算調整	$(33,913)	$(304,252)
非拘束純資産の変動	$3,400,452	$3,029,088
一時拘束純資産の変動	$(2,273,563)	$(673,626)
期首非拘束純資産	$688,489	$(2,340,599)
期首一時拘束純資産	$19,156,696	$19,830,322
期末純資産	$20,972,074	$19,845,185

ルーム・トゥ・リードの財務報告書は、認定を受けた独立公認会計士によって監査されており、ホームページ上でも入手可能です。

理事会および職員

理事会役員

クレイグ・ブルイェ(理事長):
マイクロソフト・ビジネス・
ソリューションズ元最高財務責任者 (CFO)
ユスフ・アリゼラ:
ノーブル・グループ最高経営責任者
ジェリー・デルミシエ:
バークレイズ銀行
元最高業務執行責任者 (COO)
エリン・ガンジュ:
ルーム・トゥ・リード 共同創設者
兼 最高経営責任者
ピーター・T・グラアー:
ブルームバーグ 会長
スコット・キャプニック:
ハイブリッジ・キャピタル・
マネージメント最高経営責任者
ティム・クーグル:
Yahoo! 元会長 兼 最高経営責任者
キム・アンスタット・モートン:
ガール・ライジング 諮問委員
フェルナンド・ライマーズ博士:
ハーバード大学グローバル教育
および国際教育政策ディレクター
ジョン・リディング:
ファイナンシャル・タイムズ 最高経営責任者
スーザン・ウォジスキ:
YouTube最高経営責任者
ジョン・ウッド:
ルーム・トゥ・リード創設者

名誉理事

ヒラリー・バレンタイン(理事長):
ブラック & ホワイト・デザイン 共同経営者
クリス・ビア:
アイアンマーク・ロー・グループ
創設メンバー
アラステア・マクタガート:
エメラルド・ファンド 社長
ムニール・サッター:
サッター・インベストメント・
マネージメント 会長
ジェニー・シリング・スティン:
ドレイパー・リチャー ド・カプラン財団
共同創設者 兼 相談役

リージョナル・ボード

アジア太平洋

ユスフ・アリレザ
& ディナ・クレイノ・アリレザ
ケビン & アリサ・バーク
ダニエル & ダウン・ディース
ベン & アサミ・ファーガソン
ニール・ハーベイ
カール・ハッテンロッチャー
& タミコ・M・リピット
ジョン & カミラ・リンドフォー ズ
アラン & クリスチャン・ミヤサキ
ゾルタン & タマラ・ヴァーガ

オーストラリア

スティーブ & キャリー・ベロッティ
マイク & アニー・キャノン・ブルックス
チャールズ & マイル・カーネギー
ブレット & ザウラ・ゴッドフレー
アンドリュー & エマ・グレイ
ジョン & ニコル・キース
デビット・トリブル & ドナ・イップ
マイク & シンシア・ウェラン

ニューヨーク

メアリー・パイロン
ピーター・T・グラアー
スコット・カプニック
ジャイディープ・カンナ
ステファン・キング & ジェーン・パワー
ジョン & ダッドリー・マクファーレーン
ディヴィッド & ジャックリーン・マーティン
アーロン・ニーマン
エリック & シャウナ・ヴァーヴェル

英国

アンドリュー・ボールス & エリカ・ワックス
ジェリー & ジェーン・デルミサー
パトリック & ベネディクト・ド・ノネビル
マリサ・ドリュー
マーティン・ゴワー
ダグ・ヘンダーソン
シンドゥ・ホーダー
スコット・ミード
アナリサ・ブレロ・モリス
ジョン・リディング
ランディ・ワーク

リーダーシップ・チーム

マネジメント・チーム

エリン・ガンジュ: 共同創設者 兼 最高経営責任者
リン・フォーデン: 最高国際運営責任者
サリ・フリーマン: 最高財務責任者
コリー・ヘイマン: 最高プログラム責任者
ギータ・ムラリ: 最高開発責任者
ピエール・タウンズ: 最高人材活用責任者

インターナショナル・ディレクター

ウンメシュ・ブラメ:
インド カントリーディレクター
サマンサ・チューラ:
ザンビア カントリーディレクター
フィル・クリステンセン:
南アフリカ　カントリーディレクター
シェヴァンティ・ジャヤスリヤ:
スリランカ カントリーディレクター
カール・カーン:
カンボジア カントリーディレクター
ヴィシュヌ・カーキ:
ネパール カントリーディレクター
ティエン・フォン・レー:
ベトナム カントリーディレクター
ズベイダ・マサボ:
タンザニア カントリーディレクター
ジェフリー・オダガ:
アフリカ アソシエイトディレクター
ラクヒ・シャーカー:
バングラデシュ カントリーディレクター
クリスティ・スコット:
アジアディレクター
ディネシュ・シュレスタ:
共同創設者
兼 フィールドオペレーション・ディレクター
ノーカム・スーパノヴァング:
ラオス カントリーディレクター

2015年5月31日現在

写真提供者:表紙: サイカット・モジュンダー
P3: イアン・マーフィー
P7: アン・ホームズ
P9, 17: ルーム・トゥ・リード
/パトリシア・アンドリュー
P 11, 裏表紙: ウィレム・ド・ランゲ
P 13: ヴァルン・チャウダリー
P15: シャーニ・ジャヤワディーン
P19: ルーム・トゥ・リード/エレナ・テラン
P21: ThePositiveStory.com
P23: マーサ・アダムス（ガール・ライジング
P25: ピーター・スタッキングス
P27: ソフィア・マーセティック
/ ワールド・チルドレン・プライズ
P34: ルーム・トゥ・リード/ニエン・レー
デザイン: メラニー・ドハーティー・デザイン

ルーム・トゥ・リードの「レガシーソサエティ」

レガシーソサエティ（遺贈寄付者会）は、ルーム・トゥ・リードに遺贈寄付をすることにされた方々に感謝しています。遺贈をしてくださった皆さまがレガシーソサエティに加わったひとりとして、ご遺産の活用方法について考えておられる身近な方々のロールモデルとなってくださることでしょう。遺産の譲渡、または他の方法での遺贈寄付をお考えの際に私達を思い出して頂けると大変光栄です。

2014年、教育という贈り物を与え続けたいというリンダ・スーザン・マディソン氏の強い意志により、不動産を遺贈していただきました。このことに心から感謝をしています。

またルーム・トゥ・リードは、寛大なサポーターの皆様にも感謝申し上げます。中には匿名で、私達の活動に遺産相続することにしたと知らせて下さった方もいらっしゃいます。こうしたサポートが私達にとって大きな助けになります。今後の活動のためにご協力賜りありがとうございます。

詳細は下記へお問い合わせ下さい。
tokyo@roomtoread.org